

真夏日中のウォーキングも、B5Fのビル管理用のシャワールームを特別に使用することを認めて貰ったお陰で体の手入れが出来るようになり、快適である。Yシャツに汗が染みない程度に汗をかくのが難しいが・・・歩いている最中に歩道の案内看板を見て気付いたことがあった。地図の中に「帰宅困難者支援場所」が標示されていたことだ。何時頃からこのような表示が始まったのか等確認した。

南関東や東海地震の可能性が切迫していると謂われて久しい。その切迫度は弥が上にも高まっているのだろうが、対策はどのようなのだろうか。我々の意識はどのようなのだろうか。

さて、東京直下型の大地震が惹起した場合に帰宅が困難になると推計される者の数は、東京都だけで390万人、神奈川・埼玉・千葉を含めると650万人に上ると推計されている。



(日比谷通り、第一生命前の案内看板)

さて、帰宅困難者支援場所について、千代田区のホームページ等で確認した事項は以下の通りである。

● 趣旨

東京直下型地震が発生した場合、千代田区内では60万人を超える膨大な帰宅困難者が発生すると予測されている。帰宅困難者の一時的な避難と円滑な帰宅を支援するため、皇居外苑や北の丸公園などを「帰宅困難者支援場所」として平成15年度に指定した。

● 機能

支援場所では、帰宅困難者の一時的な避難と円滑な帰宅が可能となるよう、帰宅に必要な情報や携帯食糧等を提供するなどの支援を行う。

● 千代田区の指定場所

日比谷公園、皇居外苑、北の丸公園、皇居東御苑(一部地域を除く)の4か所を指定、

● 帰宅困難者支援場所に備蓄倉庫を設置！ 第一番目として日比谷公園に

備蓄倉庫規模等 プレハブ地上2階建て、延べ床面積49.7m<sup>2</sup>

備蓄物資 発電機付投光器…4台 組立テント…5台

放送設備…1台 セルフケアセット…1セット

携帯トイレ…8,000枚 給水袋…16,000枚

尚、帰宅(困難者)支援に関しては、上記以外にも様々な試みが為されている。その幾つかを紹介しよう。

## I 帰宅支援対象道路の指定

東京都では、徒歩による帰宅を支援するため都内の幹線道路 16 路線を帰宅対象支援道路にして指定し、2 キロ以内に帰宅支援ステーションを設定している。

指定してある帰宅支援対象道路は①第一京浜 ②第二京浜 ③中原街道 ④玉川通り  
⑤甲州街道 ⑥青梅街道、新青梅街道 ⑦川越街道 ⑧中山道 ⑨北本通り  
⑩日光街道 ⑪水戸街道 ⑫蔵前橋通り ⑬井の頭通り ⑭五日市街道  
⑮環状7号線 ⑯環状8号線

## II 帰宅支援ステーションの設定

帰宅支援対象道路から2<sup>キ</sup>以内の以下の施設及び協定を締結した施設を帰宅支援ステーションとして指定している。

期待されている役割は ①水道水やトイレを提供する。 ②ラジオやテレビ等で知り得た情報の提供を行う。近隣の避難場所の情報提供を行うことである。協定に基づき支援に要した経費は、当該事業者が負担する。また、本協定に賛同した店舗は、「災害時帰宅支援ステーション」と呼称し、「災害時帰宅支援ステーション」ステッカーを店舗の入り口等、利用者の見やすい位置に貼付することとなっている。都管理下の都立高校、都税事務所の他、集配普通郵便局、ガソリンスタンド、コンビニ等が指定されている。（8 都県市とGS、コンビニとの協定締結：平成16年及び17年）因みに8 都県市とは、東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県・横浜市・川崎市・千葉市・さいたま市である。

## III 震災時帰宅支援マップ(首都圏版、昭文社 630 円)

東京都選定の帰宅支援対象16 路線及び隣接する各県の緊急輸送路をもとに、12 ルートを紹介している。掲載範囲は横浜、川越、柏及び千葉市までである。徒歩ほ帰宅者に必要な情報が網羅されている。

## IV 帰宅困難者心得10ヶ条(東京都制定)

- 1 あわてず、さわがず、状況確認
- 2 携帯ラジオをポケットに
- 3 つくっておこう帰宅地図
- 4 ロッカー開けたらスニーカー (防災グッズ)
- 5 机の中にチョコやキャラメル (簡易食料)
- 6 事前に家族で話し合い (連絡手段・集合場所)
- 7 安否確認は、災害用伝言ダイヤルの活用や遠くの親戚を通して
- 8 歩いて帰る訓練を
- 9 季節に応じた冷暖準備 (携帯カイロやタオルなど)
- 10 声を掛け合い、助け合おう。

(参考:各種HP 及び震災時帰宅支援マップ(首都圏版))